

## イベント・タイトル：

「現代中国インディペンデント映画の最前線——顧桃監督・応亮監督を迎えて」

## ゲスト・プロフィール：

### 顧桃（ゲー・タオ）

- 「1970年、内モンゴル自治区出身。内モンゴル芸術学院で油絵を、その後、北京美術学院で写真を学ぶ。2005年からドキュメンタリー映画の製作を始め、『オルグヤ、オルグヤ…』を2007年に完成させる。『雨果（ユイグォ）の休暇』でYIDFF 2011小川紳介賞受賞。長期にわたり現代中国における北方少数民族の生活と変化に注目している。」（<http://www.yidff.jp/2013/cat041/13c062.html>）
- その他の業績については、下記をご参照ください。  
<http://www.yidff.jp/2013/cat041/13c062.html>

### 応亮（イン・リャン）

- 「1977年上海生まれ。北京師範大学芸術科で映画を学び、その後重慶大学で映画監督を専攻。『あひるを背負った少年』でセンセーショナルなデビューをした彼は、ロッテルダム国際映画祭 HBF 基金を得て本作品を制作。東京フィルメックス審査員特別賞、シンガポール国際映画祭審査員賞、全州国際映画祭グランプリ、インドネシア・アジア映画祭最優秀アジア映画賞などを受賞。ニューヨークでMoMaが開催した「新監督/新映画展」でも上映された。」（<http://cifft.net/2008/programs.htm>）
- その他の業績については、下記をご覧ください。  
<http://cifft.net/2008/programs.htm>

## イベント要旨：

顧桃、応亮は共に中国インディペンデント映画の優れた監督であるだけでなく、そのプラットフォームの形成と発展に大いに寄与した人物である。その二人の監督が、近年の制作・上映環境の悪化に際しとったそれぞれの道は、現在の中国インディペンデント映画監督の二つの代表的な反応を示しているように思われる。すなわち、中国国内で新たな拠点形成を模索する動き（顧桃：内モンゴル青年映画祭の創設）と、国外に拠点を移す動き（応亮：香港、台湾での創作活動）である。本イベントでは、親密な交友関係と共通点を持ち、かつ、現在はそれぞれ異なる方略を模索するお二人をお招きし、中国インディペンデント映画の過去と未来を見つめていく。

## 使用言語：

中国語（質疑応答については、必要に応じて日本語・英語も使用可）

## 日時およびスケジュール（詳細は変更の可能性あり）：

2017年4月22日（土）、14:50~19:00

14:50-16:20 『オルグヤ、オルグヤ』（顧桃作品）上映

16:35-16:55 『慰問』（応亮作品）上映

17:00-18:30 顧桃+応亮 ディスカッション

18:30-19:00 Q&A

開催場所（予定）： 立教大学池袋キャンパス、太刀川記念、3階多目的ホール

## 主催：

- 専修大学・土屋昌明研究室
- 科学研究費挑戦的萌芽研究「カルチュラル・アサイラム—中国インディペンデント・ドキュメンタリーの生成と流通—」（研究代表者：立教大学・秋山珠子、課題番号 15K12846）
- 早稲田大学「現代中国インディペンデント映画研究部会」

## 共催：

早稲田大学アジア太平洋研究センター